

## ベトナム戦争（北爆）を経験した橋②

これまで戦争で破壊された橋を紹介してきましたが、ベトナムには爆撃にも耐え、補修・補強されながら現在も多くの人が利用されている橋があります。

それは首都ハノイ市のホン川に架かるロンビエン橋で、1903年フランスによる植民地時代に架けられた橋です。橋長1680m、19径間のワーレントラス橋で、建設された当時はニューヨークのブルックリン橋に匹敵する長さで、2番目に長い橋といわれたそうです。

ベトナム戦争中、65年からアメリカ軍の攻撃目標とされ、繰り返し爆撃を受け破壊されながらもそのたびに修復されてきました。ベトナム戦争終盤では、空爆警報が出るたびに、橋げたをり、何人もの作業員がトラスの上部の足場の上に乗って作業をしていました。下では別の作業員がリベットを溶かして加熱した。第2次大戦後、先にネトウァ橋で人民解放軍を率いたチトー元師（大統領）によって独立国となったのですが、チトー元師の死後に求心力を失って分裂、内乱の連続で現在は7つの国に分かれています。

そのうちボスニア・ヘルツェゴビナにあるスタリ橋は独立に向けての内戦中、1993年に砲撃で破壊されました。理由は、この橋がトルコ帝国に支配されていた16世紀に建設されており、カトリック教徒がイスラム教の象徴だとして嫌ったためといわれます。この橋の右岸側にはカトリック系の住民、左岸側にはイスラム系の住民が多く住んでいたのですが、カトリック教徒はこのつながりを通り切ってしまうたのです。内戦終了後、橋は再建されて2005年に世界遺産となり、現在は治安も改善されて観光地となっています。

それは首都ハノイ市のホン川に架かるロンビエン橋で、1903年フランスによる植民地時代に架けられた橋です。橋長1680m、19径間のワーレントラス橋で、建設された当時はニューヨークのブルックリン橋に匹敵する長さで、2番目に長い橋といわれたそうです。

ベトナム戦争中、65年からアメリカ軍の攻撃目標とされ、繰り返し爆撃を受け破壊されながらもそのたびに修復されてきました。ベトナム戦争終盤では、空爆警報が出るたびに、橋げたをり、何人もの作業員がトラスの上部の足場の上に乗って作業をしていました。下では別の作業員がリベットを溶かして加熱した。第2次大戦後、先にネトウァ橋で人民解放軍を率いたチトー元師（大統領）によって独立国となったのですが、チトー元師の死後に求心力を失って分裂、内乱の連続で現在は7つの国に分かれています。

そのうちボスニア・ヘルツェゴビナにあるスタリ橋は独立に向けての内戦中、1993年に砲撃で破壊されました。理由は、この橋がトルコ帝国に支配されていた16世紀に建設されており、カトリック教徒がイスラム教の象徴だとして嫌ったためといわれます。この橋の右岸側にはカトリック系の住民、左岸側にはイスラム系の住民が多く住んでいたのですが、カトリック教徒はこのつながりを通り切ってしまうたのです。内戦終了後、橋は再建されて2005年に世界遺産となり、現在は治安も改善されて観光地となっています。



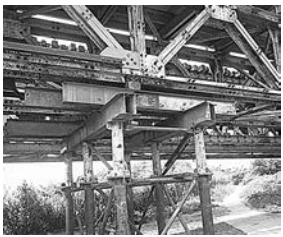
現在のロンビエン橋の状況推定図

## 戦争を経験した橋 診断士が語る

### ⑩ 爆撃に耐えた橋 民族紛争の橋



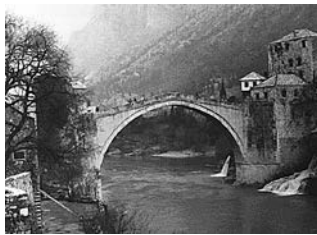
ロンビエン橋の賑わい



支柱とトラス桁で支持されている状況

まれています。今では日本ではほとんど見られないリベット職人の技がここには残っています。宗教の狭間で破壊された橋は再建されて2005年に世界遺産となり、現在は治安も改善されて観光地となっています。

旧ユーゴスラビアは、



破壊前のスタリ橋